

平成31年度（令和元年度）の学校づくりにあたって

Look East Project ※

夢や志の実現に向けて、自分の進む道を見定め、自ら道を切り拓いていく力を育むために、新しい中学校づくりにチャレンジします。



長野市立東部中学校

※ 長野市教育委員会「活力ある学校づくり」研究指定

未来予測が困難な激動の時代

- ・ 技術革新、グローバル化の急速な進展
- ・ 少子高齢化、自然災害、エネルギー問題等の深刻化
- ・ “第3の開国”、Society5.0
- ・ 新たな職業の誕生、既存の職業がA I やロボットに代替

社会が変わる、学びが変わる

学校教育の転換期

- 大学入試改革（現高2から）
「大学入学共通テスト」の実施
- 長野県高校入試改革（現中1から）
前期選抜での学力検査、後期選抜の基準の複数化

《校長の願い》

生徒たちは、21世紀を創り22世紀まで生きていく

- ・社会がこれからどう変化しようとも、それに対応できる逞しさやしなやかさを身に付けてほしい。
- ・東部中生のよさ(中学生らしい素直さや元気)を一層発揮して、自分たちの力で自分たちの生活をよりよいものにしてほしい。

◆生徒が思考し、判断し、表現する機会にあふれた学校

「こうしなさい」→「どうしたいのか」

◆生徒の自己肯定感を高める学校

「どうせ無理」→「やればできる」

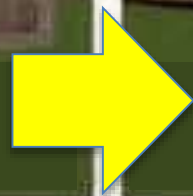
《コンセプト》

Student First
(学習者本位)

「Student First」の意味



平等



公正・公平

「公正に個別最適化された学び」を実現する
多様な学習の機会と場の提供

「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(文科省)

千代田区立麹町中の取組

“学校は社会人になるための準備期間”

- A 言語や情報を使いこなす能力
- B 自分をコントロールする能力
- C 多様な集団の中で協働できる能力

- 定期テスト・宿題の廃止
- 固定担任制から全員担任制へ
- 毎日のP & Pタイム
- P T Aが運営するアフタースクール
(麹中塾、部活動、サークル)
- 企業・大学との連携
- 卒業生による特別授業
- 修学旅行の見直し など

《将来、必ず必要になる力》

- ① 自分のスケジュールを管理する
- ② 自分に必要な学習を自覚し、進んで取り組む
- ③ 自分たちで日常生活をよりよいものにする
- ④ 地域の一員としての役割を果たす
- ⑤ 心配事や悩み事の相談相手をもつ

《3つのアプローチ》

- ① 生徒一人一人のケア、サポートを充実する学年体制を構築
- ② 生徒が自分に必要な学習を自覚し、進んで取り組みたくなる仕組みを開発
- ③ 学校生活の充実や地域貢献をめざして生徒が企画・運営する活動を支援

「学年担任制」の導入

【ねらい】

- ・ 学級をオープンにし、学級間の差を軽減したり、生徒が相談しやすい教員を見つけたりできるようにする。
- ・ 教員の個業意識や相互不干渉の風土から脱却する。

これまで、閉じた学級で、学級担任が一人でこなしていた業務を学年職員で分担し、それぞれの視点から、学年生徒の成長を支援する。

いじめ対策・人間関係づくり

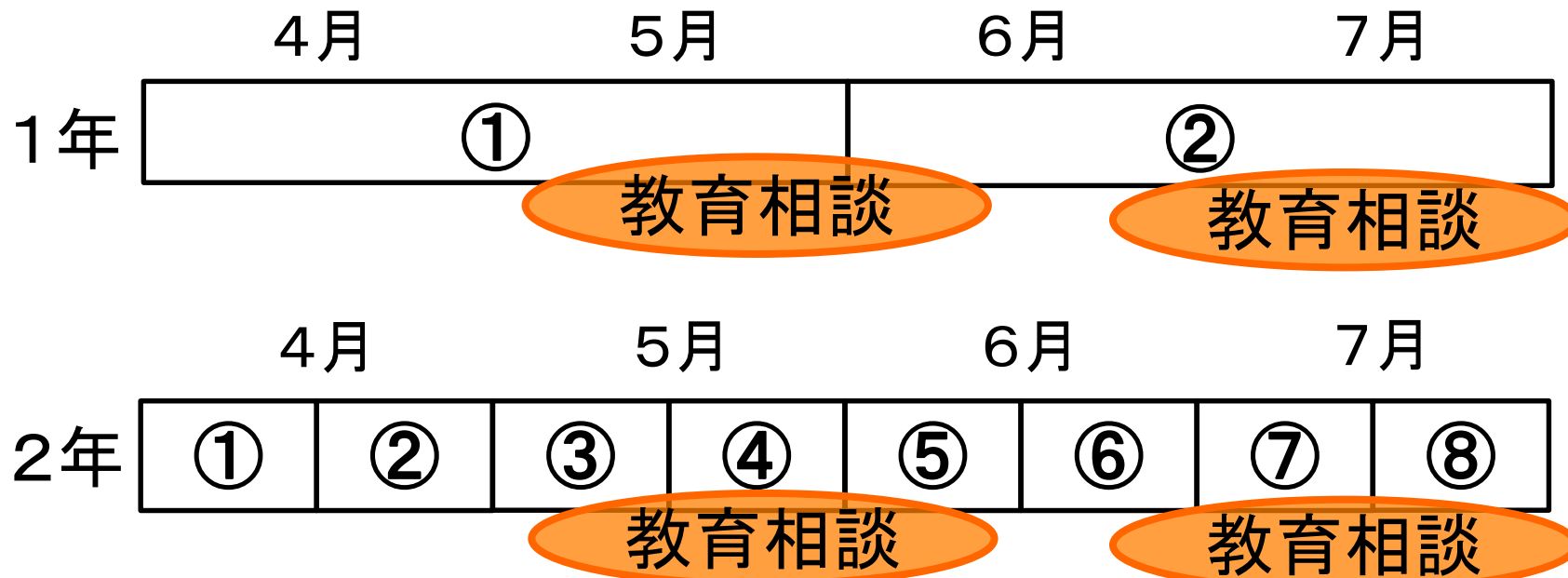
授業改善・
学力向上

学年生徒

日常生活充実・
自治力向上

チーム支援により、アクティブ・ラーナーを育てる

◆ 1学期の学級担当のローテーション



◆ 情報共有

- ・毎朝の学年打合せ：学級・生徒の様子、必要な対応の確認
- ・学年会：各係の取組の検討、各生徒のカルテの作成
- ・教務会、職員会：各学年の取組の発表、意見交換

◆ 学年担任制のキモ

- ・学級が開かれていて、学年のどの教員が入っても、生徒にも教員にも違和感がないこと

◆ 学年担任制でうまくいったこと

- ・ 生徒の心配や悩みを把握した時、その生徒の希望する教員やその生徒に合う教員を相談相手として配置することができた。
- ・ 人間関係のトラブル等に対して、早期発見、学年会での情報共有ができ、関係生徒への対応・学級全体への指導・保護者への連絡・その後のフォロー等を、学年職員が分担・連携して行うことができた。

◆ うまくいかなかったこと

- ・ 教員間の連携不足や曖昧な役割分担が原因で、家庭連絡が遅れたり、提出物等の事務処理が適切に行われなかったりした。

◆生徒の声（県教委との懇談会（9月）で）

- ・前は相談できる先生が一人だったが、今はいろいろな先生に相談できる。
- ・去年は担任が苦手な先生だった。今年は苦手な先生がいても、次にそうでない先生が来るので話すことができる。
- ・クラス差が前はあったが、軽減された。
- ・自分たちで進めているので、大変なことが多くて、前は先生に苦勞をかけていたことがわかった。
- ・先生や誰とでも話せる人はよいが、話すことが苦手な人には少し不安もあるように思う。

◆保護者アンケート（7月）に寄せられた意見

- ・相談しやすい教員の選択、複数の目で見てもらうのはよい。
- ・誰に相談すればいいのかわからない、相談しにくい。
- ・一人一人をきちんと見てもらえるのか、把握できているか。
- ・生徒や学級に対する責任が希薄ではないか。
- ・進路指導に向けての不安

改善策① 年間を通じて各学級の窓口となる 担当教員（窓口担当）を固定する。

学級担任制からの無理のない移行

- ◆ 少なくとも週の半分程度は、窓口担当を学級に配置し、窓口担当と学級が継続的にかかわれるようにする。
- ◆ 学級の実態や行事等を踏まえて、職員をローテーションし、複数の目で生徒の様子を把握するとともに、生徒にとって相談しやすい環境をつくる。
- ◆ 窓口担当の役割
 - ・ 連絡や相談の窓口
 - ・ 学級事務や成績物の作成など



相談は、
まずここへ

改善策② 教育相談は、窓口担当または生徒や保護者の希望する教員、あるいは両方が行う。

◆生徒と保護者の希望に応じた相談体制を維持する。

窓口担当と



希望する教師と



- ・内容に応じて
- ・相談したい教師に
- ・複数の教師に
- ・日常的に

学年担任制の導入により 新たに始まった学力向上の取組

伸びる力を伸ばす
全体を底上げする

◆ 教員の手による取組

- ・ 放課後学習室の開放
- ・ 支援が必要な生徒のピックアップと担当教員の割り振り
- ・ 単元テスト、チャレンジテストの実施
- ・ 保護者向け学力向上メルマガの配信

◆ 生徒の手による取組（2学年）

- ・ **学力向上委員**（各学級5教科各1人）
日々の授業の要点をまとめ、午後学活で発表、掲示
- ・ **教科主任**（各学級2人）
工夫した自主学習ノートの紹介、小テストの作成
- ・ **Yellow義塾**（ルーム長会12人）
テスト2週間前から、テスト予想問題の作成と解説

本気学（まじがく）



放課後自習室



和学（なごがく）

Yellow 義塾 不仕立 塾 (VCC)

山岳の形成

① 造山帯

② 環太平洋造山帯

③ アルプス・ヒマラヤ造山帯

④ 安定大陸

(1) 山地

(2) 丘陵地

(3) フォッサマグナ

(甲) 岩石海岸

(乙) 砂浜海岸

問題に答えてください。

(1) 大地が安定している大陸を何と呼ぶか。

(2) 日本の対馬は約4分の3は何の何のな部分か。

(3) 日本アルプスから、その南側に南北に伸びるものの名前を答えなさい。

(4) 岩場がけのようになっている海岸の名前を答えなさい。

(5) 一帯に広がる対馬の海岸の名前を答えなさい。 出題範囲：地理の教科書142p～145p

(6) (1)は(2)が発達している所の名前を答えなさい。

YELLOW義塾

学校、家庭、地域で力を合わせて、
生徒が自分の未来を自分で切り拓いていく
学習環境を整えていくこと、それが、

Look East Project !

